

こたえ オルフェウスのたてごと

はってん
発展 ③

オルフェウスのたてごと

(ギリシャの神話)

昔、ギリシャに、オルフェウスという、たてごとの名人がいました。オルフェウスがたてごをひいて歌うと、人々だけでなく、動物や木々までもが聞きほれたといいます。

オルフェウスには、エウリュディケという妻がいました。ところが、ある日、妻は毒へびにかまれて、亡くなってしまいました。悲しみにくれたオルフェウスは、妻を取りもどすため、死者の国へと向かいました。

死者の国の王の前で、オルフェウスは、たてごをひいて、妻への思いを歌いました。その歌があまりにも悲しく美しかったので、王の心も動かされました。王は言いました。「妻を連れて帰るがよい。ただし、地上に出るまで、決して後ろをふり返ってはならない。」

オルフェウスは、妻を後ろに連れて、暗く長い道を、地上へ向かって歩き始めました。けれども、後ろからは、何の物音も聞こえません。「本当に、妻はついてきているのだろうか。」不安になったオルフェウスは、地上まであと少しというところで、ついに、ふり返ってしまいました。

その瞬間、妻のすがたは、すうっと消え、死者の国へと引きもどされてしまったのです。

1 オルフェウスは、何の名人でしたか。

たてごと

の名人

2 死者の国の王が、妻を連れて帰ることを許したのはどうしてですか。

オルフェウスの歌があまりにも悲しく美しく、心を動かされたから。

3 王が出した条件は、何ですか。

ア 地上に出るまで、後ろをふり返らないこと

イ たてごをひき続けること

ウ だれとも話さないこと

4 オルフェウスが、ふり返ってしまったのはどうしてですか。

後ろから物音が聞こえず、妻が本当についてきているか不安になったから。

5 さいごの場面の、オルフェウスの心情に合うものに、○をつけましょう。

ア 深い悲しみと後悔

イ 大きな喜び

ウ ほっとした安心